

天蓋の謎と温室効果

大洪水以前の地球環境、ことに大気の組成が現在と大きく異なった場合、放射性同位体による年代測定法はまったく信用できない代物となる。具体的に、大洪水以前の世界と現在の世界で異なる点は何か？当時の世界を知る手掛かりとなる旧約聖書の中には、次のような記述が発見される。神は言われた。「水の中に大空あれ。水と水とを分けよ」。神は大空を造り、大空の下と大空の上に水を分けさせられた。そのようになった。神は大空を天と呼ばれた。（創1：6－8）ご存知、旧約聖書の中でもっとも重要な位置を占めるバイオジェネシスの一場面である。大空の下の水とは地球表面を覆う海水であると考えていい。一方の大空の上の水とは雨を降らす雲のことである。

ただし、現在われわれが普通に見る雲ではなく、大洪水以前の世界における巨大な“天蓋”——地球全体を厚く包んでいた高層雲を意味している。古代オリエントやギリシャの世界観では、大空の上には壁のような天蓋があり、あたかも東京ドームのように陸地全体をカバーしているとされた。もっともそれは雲の天蓋ではなく、丸天井のような固い天蓋だった。多くの学者は、ただ単純に創世記の記述は当時オリエント世界一帯に普及していたこうした天蓋概念の反映であると解釈する。しかし、そうした世界観を生み出した哲学、あるいは宗教思想の底流には、実際、大洪水以前に地球全体を覆う厚い雲が存在し、祖先から伝承として伝えられた当時の世界の記憶があったとは考えられないか。

旧約聖書の中には、ノアの大洪水の際、“天の窓”が開き、そこから膨大な量の水が落ちてきたと記されている。天の窓とは天蓋に開いた大穴のことであり、かつて宇宙から降ってきた大量の水分が地球の雲層を破壊したことを示している。すなわち、大洪水以前の世界に存在した巨大な“天蓋”はノアの大洪水で失われたのだ。地球全体が雲で覆われていたとするとそれだけ日射量も少なく、さぞかし寒かっただろうと思うかもしれない。しかし、雲の天蓋は地球を暖める赤外線は通過したが、熱に転換した段階で、今度はその熱を逃さないビニールハウスの役割を果たしたため、逆に地球全体が温暖だった。化石からも当時の地球は緯度の高低にかかわらず一律に温暖で湿潤な気候下にあったことが分かっている。

さらに、南極圏や北極圏からも植物の死骸で形成された大量の石灰層が発見されている。今は極寒の両極地方もかつては植物が生い茂る温暖の地であり、氷床も存在しなかったのだ。現在、両極地方を覆っている氷床をすべて溶かすと、全世界の海水面は約65メートル上昇し、陸地の8割以上は海の下になってしまうという。これはとりもなおさず、かつて地球を水没させた膨大な水が、天蓋が破壊されたことによる大洪水後の急激な放射冷却現象によって両極に集められ、そのまま豪雪となって降り注ぎ、巨大な氷床を形成したことを示唆している。また、雲の天蓋は温室効果により地球全体を暖めたが、同時に宇宙から来る有害な放射線の多くを地上に到達する前にシャットアウトした。

旧約聖書を読むと、大洪水以前の人々は異常なほど寿命が長かったことが分かる。アダムが930歳、セトが912歳、エノシュが905歳、ケナンが910歳、マハラルエルが830歳．．．という具合に。ところが、大洪水以後の世界を生きたノアの子孫は次第に寿命が短くなって行き、ノアの嫡男セムの時代には600年前後、アブラハムの代に至ると200年前後にまで落ちている。寿命の激変をもたらした原因の一つは、やはり天蓋の喪失にある。雲の天蓋は有害な宇宙線、特に細胞分裂を促し、老化の一因となる紫外線の大部分を反射した。おろん、900歳から100歳への急激なダウンはあまりにもケタ違いであり、単純に紫外線だけで説明できるわけではない。

現在、日本人の平均寿命は80歳そこそこ。同じ生物でも猫は100年前後、オウムは種類によるが30年前後、ガラパゴスのゾウガメは300年は生きる。ちなみに恐竜に関しては化石からも300年以上生きた種がいたことが判明している。生物の寿命を司るのはひとえに遺伝子である。理論的には遺伝子を操作すれば老化を鈍化させたり、あるいは寿命そのものを延ばすことができる。大洪水以前の異常な長寿にも、多分に遺伝的な要因が絡んでいる。旧約聖書によれば原初の人類アダムの末裔は大洪水で滅び去り、ただノアとその家族だけが残された。現在の間人はすべてノアの子孫であり、遺伝的にも彼らの情報を受け継いでいることになる。

ノアの三人の息子（セム、ヤフェト、ハム）はそれぞれ別の種族

の嫁を娶っており、人種が3種に分かれたのもそこに原因がある。だとすれば、必然的に三人の嫁の遺伝子に生物の寿命を縮小するなんらかの要因があったことになる。あるいは近親相関を繰り返す過程で、潜在的な劣性遺伝子が顕在化した可能性もあるが、生物の平均寿命を設定する“時の遺伝子”がまだ発見されていない現段階においては、やはりすべて推論に過ぎない。寿命の謎に関しては将来のヒトゲノムの解読を待った方がよいだろう。ちなみに大洪水以前の世界は、有害な紫外線に限らず、地上に到達する宇宙線そのものが雲の天蓋に遮られたため現在よりも少なく、このことが年代測定の誤差を生み出す一因となっていると考えられる。C 14のような放射性同位体の生成には宇宙線によってつくられる速度の速い中性子との衝突が不可欠だからだ。